

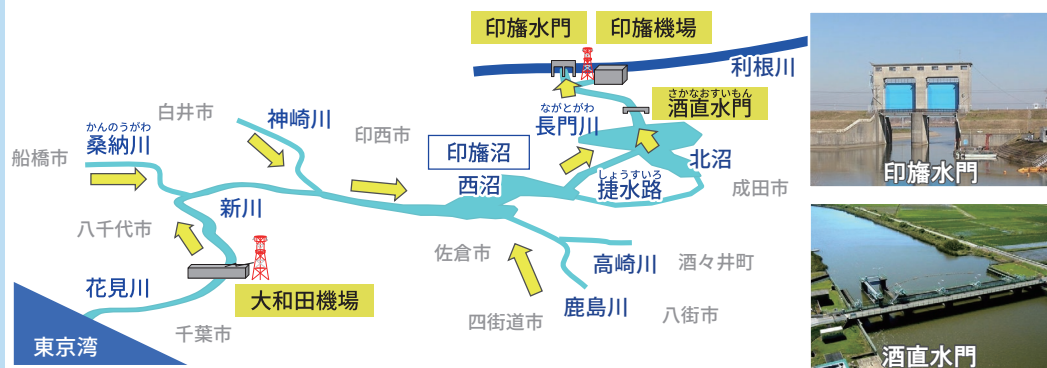


印旛沼流域に降った雨はどうなるの？

印旛沼に降った雨は、その量や沼流域・利根川の状況に応じてポンプ排水を行います

【その1】ふだんの流れ～洪水の初期段階

印旛沼流域（船橋市・鎌ケ谷市の一部や千葉市緑区なども含む）に降った雨は、酒直水門・印旛水門を通り、自然の勾配で利根川に流れていきます。



【その3】さらに印旛沼の水位が上がってくると…

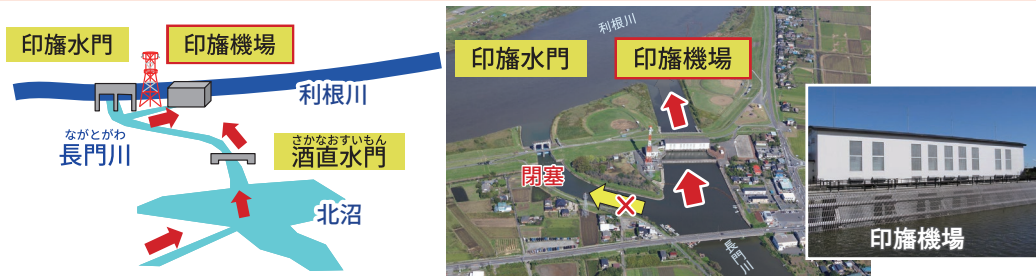
流域の雨が印旛沼に大量に入ってくると、西沼の水を効率よく排水するため、大和田機場のポンプ排水によって、花見川を通じて東京湾へ排水します。このとき、新川は通常と逆方向に水が流れます。



【その2】洪水中期（利根川の水位が上昇）

大雨で利根川の水位が上がってくると、印旛水門を閉めて印旛機場より利根川へポンプ排水を行います。

印旛機場ができる昭和43年までは利根川の水が印旛沼へあふれ、洪水被害が頻繁に発生していましたが、現在はポンプ排水を行い洪水を防いでいます。



近年の気候変動や印旛沼周辺の都市化によって、雨が降ってから印旛沼に水が入ってくるまでの時間は年々早くなり、その量も雨の強度に応じて増加しています。

このため、印旛沼の水をあらかじめ下げる「予備排水」を行ったり、沈下した印旛沼堤防のかさ上げ工事や、流入する河川の改修工事を行って洪水被害を防止する取組を行っています。

